

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：35411

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10589

研究課題名（和文）オンラインシステムを活用した臨地実習における教育実践能力育成プログラム開発

研究課題名（英文）Development of program to education for clinical nursing practice for using an Online System

研究代表者

高橋 名帆子（NAKAGAWA, Nahoko）

福山平成大学・看護学部・准教授

研究者番号：10760754

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、新任看護系大学教員が自ら教育実践について学ぶためのプログラム開発である。大学では、新任教員が体系的に教育を学ぶシステムやその機会が確保されておらず教育実践に困難を感じている。このため、本研究では新任看護系大学教員が携わることの多い臨地実習に焦点を当て調査を行った。現段階では教育項目の抽出が完了し、教育目標の設定と教育項目から教育内容の精選、教育方法の検討を行っている。本調査ではデルファイ法を用い看護系大学の教授・准教授から回答が得られ、現場に即した精選された教育項目が抽出されたと考えられる。今後は、パイロット調査で本教育プログラムを用いた介入研究を実施する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、大学教員として未経験の教員のための教育実践に関するプログラムを開発することで、大学教育の質の担保の一助となると考えられる。本研究では、看護系大学の新任教員を対象としている点から看護基礎教育の質担保となり得る。現段階では、教育項目を精選することができ、プログラムの要である教育内容が明らかとなった。現任の看護系大学の教授・准教授を対象とした調査を行ったことから、より現場に即した教育内容が提供できる土台となる。高い質の教育プログラムの提供は、新任教員の教育実践力向上につながり、ひいては看護基礎教育の質的向上につながると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop a program for new nursing faculty members to learn about educational practices on their own. At university, there is no system or opportunities for new faculty members to systematically learn education, and it is difficult to practice education. For this reason, this study focused on on-site clinical practice, which is often involved in new nursing university faculty members. At this stage, the extraction of educational items has been completed, and educational goals are being set, educational content is carefully selected from educational items, and educational methods are being examined. In this survey, the Delfhi method was used to obtain responses from professors and associate professors at nursing universities, and it is thought that carefully selected educational items that are relevant to the field were extracted. In the future, this plan to conduct an intervention study using this educational program as a pilot study.

研究分野：看護教育学

キーワード：新任看護系大学教員 臨地実習指導 教育プログラム オンラインプログラム

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

看護系大学教員への道は様々あるが、大学設置基準第四章に定められている大学教員になるための条件としては、修士の学位もしくは博士の学位を有していること、講師及び助教の職位では、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とされている。講師や助教には、教育上の能力を有するとの規定であり、教育経験や教育に関する教育を受けていること等の条件は課せられてはいない。また、平成 22 年に厚生労働省から出された「今後の看護教員の在り方に関する検討会報告書」において、看護教員に求められる能力として、「教育実践能力」「コミュニケーション能力」「看護実践能力」「マネジメント能力」「研究能力」の 5 つの能力と「向上すべき資質」が示された。しかし、看護系大学教員を志した者が、これらの能力を体系的に学ぶ機会やシステムは整備されていない。

大学では教員の職能開発のために、ファカルティ・ディベロップメント活動(以下 FD)が義務づけられ、各大学において組織的な取り組みがされている。千葉大学大学院看護実践研究指導センターが実施した調査(2014)では、看護系大学における FD 研修は、全教員を対象とするものが 85.3%と多く、新任教員を対象にした FD 研修は 6.8%と少なく、新任看護教員に特化した研修になっているとは言い難い。看護系大学教員になるための条件として、修士もしくは博士の学位を有していることとされている。我が国における看護系大学院教育の現状をみると、日本看護系大学協議会の調査(2013)では、全国で修士課程、博士課程は 144 課程であった。回答が得られた大学院のうち、看護教育学/教育学に関する科目の開講をしている 77.4%で開講していない大学院が 20.8%であった。また、大学院生を対象とした調査項目において、修士/博士課程前期の対象は、74.8%において教員経験はなかった。また、大学院教育において大学院生に教育能力を習得させることについては、必須・重要等の意見はあるが、研究科の目的から外れる、「絶対必要」ではない、必要性を感じないとの意見も少なくなかった。さらに、大学院における教育内容を考えると困難であるという意見があった。これらのことから、大学院教育においても体系的な教員(志望者を含む)に対する教育は、十分には行われていないことが推測される。一方、大学が新任大学教員を対象に、独自に実施している取り組みがある。例えば 2010 年から東北大学 大学教育支援センターでは、文部科学省より教育関係共同利用拠点として認定を受け、新任教員プログラムとして、大学教員に求められる様々な能力獲得に向けたプログラム提供がされている。様々なコースが準備されているが、応募資格として大学教員で、概ね 40 歳以下を対象とし、9 か月の間に実施されるセミナーやワークショップに不都合なく参加できる者とされている。看護系大学教員の現状から、受講は現実的には厳しいと考えられる。他にも東京大学、聖路加国際大学、千葉大学などが独自に取り組みを行っているが、各大学の大学院生や教育職員を対象としており、誰もが学べる場ではない。そこで、学生と関わる頻度も高く、臨地実習指導を行うことが業務の中心とも言える新任看護系大学教員を対象とした、臨地実習における教育について、各自で学ぶ事ができる教育実践能力育成プログラムを開発することとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、新任看護系大学教員が自ら必要な臨地実習に関する教育実践能力を獲得するためのオンラインシステムを活用した教育実践能力育成プログラムを開発し、その教育効果の評価を得ることである。

3. 研究の方法

1) 臨地実習における教育に関連する文献の検討と教育内容の抽出

(1) 第一段階の調査として、4 冊(亀岡ら, 2020; 杉森・舟島, 2021; グレグら, 2018; 佐藤ら, 2009)の文献から、臨地実習時の教育実践に関する知識および技能として必要な項目を抽出し、アイテムプールを作成した。研究代表者、研究分担者 2 名が各々抽出したアイテムプールを、研究代表者、研究分担者とともに、重複や不足項目がないことを確認した。アイテムプール抽出後にスーパーサイズを受けることになっていたが、COVID-19 感染拡大により計画を変更し、看護基礎教育に精通する看護系大学の教授にアイテムプールの確認を受けた。さらに質問調査票の妥当性、内容妥当性は、看護専門学校専任教員を対象にパイロット調査を行った。

(2) 教育内容決定のためのアンケート調査

第二段階の調査として、新任教員が看護学実習指導時に必要な知識と技能のミニマムリクワイアメントを明らかにすることを目的にアンケート調査を実施した。研究対象者は、全国の看護系大学の教授・准教授とした。デルファイ法では、研究対象者を「エキスパートパネル」とし、調査内容に精通した専門家が選出される必要がある。学校教育法第九十二条における職位の規定に則り、看護系大学の教授・准教授は、看護基礎教育における幅広い知識・技術と経験を持ち、新任教員が看護学実習指導時に必要な知識・技能について熟知しているといえ、本研究のテーマにおける専門家、いわゆる「エキスパートパネル」を象徴できていると考えられた。

研究対象者の選出方法は、看護学校便覧 2022 に掲載されている全国 295 校の看護・看護系大学を対象とした。調査項目は、第一段階の調査項目である。調査項目は、パイロット調査の結果

も踏まえ、さらに研究者間で検討を重ね、作成した 130 項目とした。新任教員が看護学実習指導を行う際に必要な知識や技能について、実際に看護学実習指導を行い、さらに新任教員の看護学実習指導の現状を理解されている看護教員の合意を得ることが必要であると考え、デルファイ法を用いた。5 段階リッカートスケールを用い、以下の状況を想定し、回答を求めた。調査票回答時の条件は、「大学教育経験のない新任の助教もしくは助手が、1 か月後から看護学実習指導を行う。この看護学実習に教授や准教授は、常に同行できない」とした。調査票回答時の条件は、第 1 回から第 3 回まで同様の条件を踏まえた回答を求めた。

分析においては、5 と 4 を同意とみなした。同意率については、先行研究においても様々な見解が持たれている。Williams & Webb (1994) は「同意率について、研究者間で慎重かつ丁寧に検討されるべきだ」と述べている。本研究では、Rowe, Wright & Bolger (1991) の「デルファイ法の原則の 1 つに n+1 が 1 よりも優れている。グループの潜在的な総計は特定の個人の総数とほぼ同程度となる」という見解を基に、同意率を 51% に設定した。

大学倫理審査委員会の承諾を得て (承諾番号 4-4) 実施した。

4. 研究成果

引用文献

千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター (2014). 看護学教育における FD マザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト. 看護系大学における FD 実態調査調査結果. 1-5.

グレッグ美鈴, 奥井幸子, 田村由美, 高橋みや子, 田中響, 近田敬子, 林千冬, 松本清子, 中岡亜希子, 池西悦子, 和賀徳子, 安酸史子, 塚本友栄, 佐々木幾美, 朝倉由紀, Joan Kathy Magilvy, Vicki Erickson, 竹熊カツマタ麻子, 角田みなみ, 松谷美和子 (2018). 看護学テキスト NiCE 看護教育学 (改訂第 2 版) 看護を学ぶ自分と向き合う. 監修グレッグ美鈴, 池西悦子, 207 - 228, 東京: 南江堂.

一般社団法人日本看護系大学協議会高等教育行政対策委員会 (2013). 看護系大学院における教育の基準策定と評価に関する調査研究報告書, 1-18.

亀岡智美, 鈴木美和, 永野光子, 中山登志子, 服部美香, 宮芝智子, 山下暢子, 山澄直美, 横山京子, 植田満美子, 鹿島嘉佐音, 金谷悦子 (2020). 看護学教育における授業展開 (第 2 版) - 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて 監修舟島なをみ, 205-289, 東京: 医学書院.
佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子 (2009). 看護教育における授業設計 (第 4 版). 100-128, 東京: 医学書院.

杉森みど里, 舟島なをみ (2021). 看護教育学 (第 7 版). 255-297, 東京: 医学書院.

Rowe G., Wright G., Bolger F. (1991). Delphi: A reevaluation of research and theory. *Technological Forecasting and Social Change*, 39, 235-251.

Williams P., Webb C. (1994). The Delphi technique: a methodological discussion. *Journal of Advanced Nursing*, 19, 180-186.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小西真人
2. 発表標題 看護技術教育における技術チェックリストの内容と評価に関する文献レビュー
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中川名帆子
2. 発表標題 新任看護系大学教員に必要な看護学実習指導に関する知識と技能のデルファイ法調査
3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小西 真人 (KONISHI Masato) (00760745)	岐阜医療科学大学・看護学部・講師 (33708)	
研究分担者	鷲野 嘉映 (WASHINO Kaei) (90220855)	愛知みずほ短期大学・その他部局等・教授(移行) (43925)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 里美 (TANAKA Satomi) (20733819)	岐阜医療科学大学・看護学部・准教授 (33708)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関